

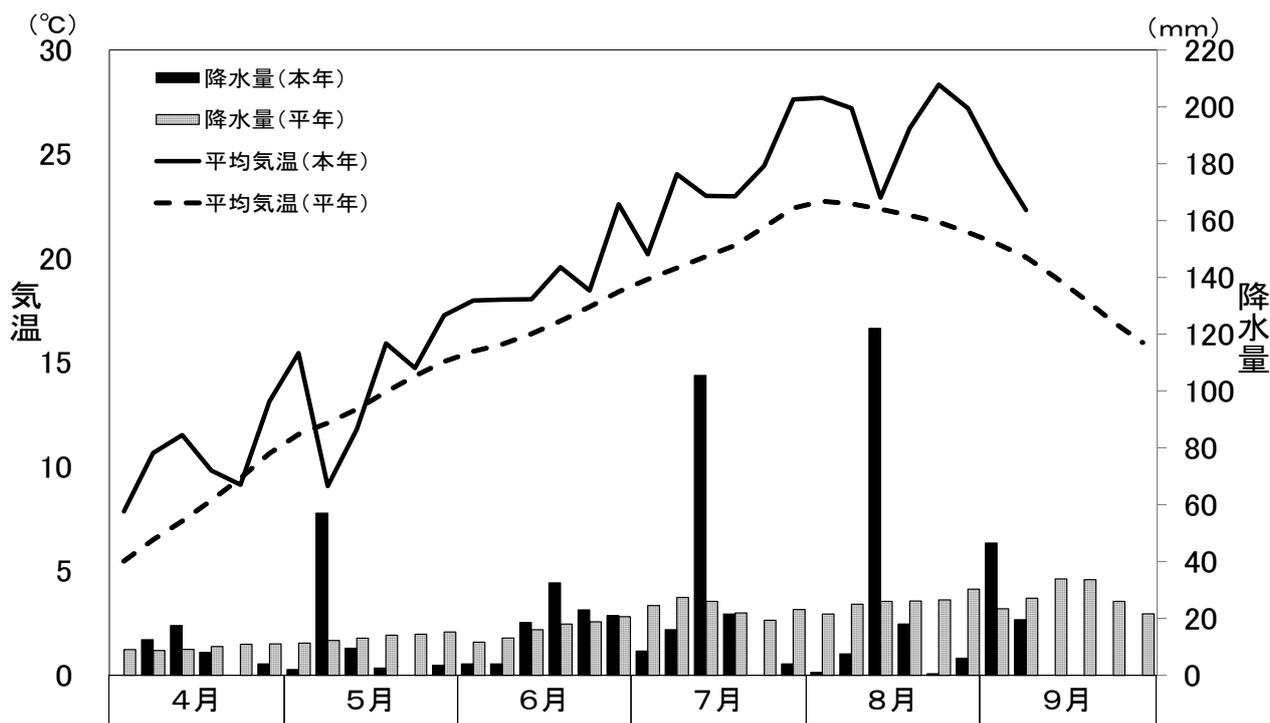
上北農業生産情報 第6号

令和5年9月21日

「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

- 水稻の適期刈取と農作業の安全に努めましょう！
- 台風や大雨に備え、明きょ等の排水対策を徹底しましょう！

気象



半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

【8月】

- ・平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬・下旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。
- ・降水量は、上旬・下旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。

【8月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年								
上旬	27.5	22.7	32.9	27.3	22.6	19.0	89.4	51.1	8.5	46.5
中旬	24.6	22.2	28.2	26.7	22.0	18.6	33.9	46.3	140.0	52.1
下旬	27.7	21.5	32.9	26.1	23.6	17.5	95.9	51.7	6.5	56.8

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

【9月上旬】

- ・平均気温は、平年を上回った。
- ・日照時間は平年を下回り、降水量は平年を上回った。

【9月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年								
上旬	23.4	20.4	27.4	25.2	20.0	16.3	36.5	44.1	66.0	50.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(9月16日から10月15日までの天候見通し)

令和5年9月14日 仙台管区气象台 発表

○天気は数日の周期で変わるでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

水 稲

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「まっしぐら」成熟期の生育調査では、稈長は平年より長く、穂長及び株当たり穂数、 m^2 当たり穂数は平年並であった。
- 2 1穂籾数、平年及び m^2 当たり籾数（暫定）は平年並で、登熟歩合は74.2%と平年を大きく上回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：まっしぐら）】

年次	出穂期 (月/日)	9月1日現在				1穂 籾数 (粒本)	m^2 籾数 ($\times 100$ 粒)
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	m^2 穂数 (本/ m^2)	登熟歩合 (%)		
本年	7/30	79.4	18.1	369	74.2	84.4	310
前年	8/3	75.3	18.3	368	65.4	87.7	322
平年	8/6	74.7	17.9	366	49.8	84.1	307

注1) 管内生育観測ほ13地点の平均値、平年値は各地点の平年値(前4か年～前18か年の平均値)の平均値

注2) 登熟歩合は比重1.06の塩水に沈んだ籾の割合、籾数は暫定値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 刈取り作業
 - ア 「まっしぐら」の刈取適期始めの目安（出穂後積算気温 $960^{\circ}C$ 到達予想日）は、出穂が早かったほ場（7月29日出穂期）で十和田アメダスでは9月4日、平均的なほ場（8月1日出穂期）では9月7日であった。

出穂の早晩	出穂期				
	7月27日	7月29日	7月31日	8月2日	8月4日
適期の目安	7月27日	7月29日	7月31日	8月2日	8月4日
適期始($960^{\circ}C$ 到達日)	9月1日	9月4日	9月6日	9月9日	9月11日
適期終($1,200^{\circ}C$ 到達日)	9月11日	9月13日	9月16日	9月19日	9月22日

注1) 十和田アメダス：9月14日まで本年値、以後平年値で積算

イ 個々のほ場の刈取時期は、出穂の早晩や籾数の多少によって異なるので、籾や枝梗の黄化程度、籾水分量、青未熟粒の混入割合等から総合的に判断する。今年のように夏季高温年は、胴割粒が発生しやすくなるうえ、刈遅れは、茶米等の多発が懸念されることから、出来るだけ早い時期に刈り終えるようにする。

2 その他留意事項

- ア 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。
- イ 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- ウ 「良食味・高品質米」生産のため、乾燥は適正水分15.0%を目標とする。
- エ コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月11日現在の生育は、草丈は平年を上回り、着莢数は平年並である。
- 2 生育が旺盛なほ場で、倒伏の発生がみられる。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	9月11日現在		備考
		草丈 (cm)	着莢数(莢/本)	
十和田市切田	本年	128.7	40.6	
	平年	98.9	39.6	
	前年	101.7	46.0	

注1) 平年値は平成13年～令和4年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないよう明きょ等の補修を行う。
- 2 青立ち株や大型雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 収穫適期は、コンバイン収穫では子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 培土高のムラが大きいほ場や倒伏が見られるほ場では、土による汚損粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

小麦

《今後1か月間の主な作業》

- 1 耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- 2 湿害を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。
- 3 種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を徹底する。
- 4 は種作業は遅くても9月末までに終え、越冬前の生育量を確保する。
- 5 は種量は10a当たり条播で6～8kg、散播で12～13kgとする。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在(調査日は9月11日)の生育は、いも長、いも径、いも重ともに平年を上回っている。

- 2 一般ほ場では、地上部は順調に生育している。いもの伸長も順調であるが、一部いも径が平年を下回っているほ場もある。
- 3 葉渋病、炭そ病の発生が広く見られており、ナガイモコガの食害も見られている。

【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	萌芽揃期 (月/日)	つるの柵 頂到達日 (月/日)	9月10日現在		
					いも長 (cm)	いも径 (mm)	いも重 (g)
東北町野田頭	本年	5/ 5	6/ 1	7/10	78.3	54.8	905
	平年	5/12	6/ 6	7/10	63.2	52.5	768
	前年	5/ 9	6/ 8	7/10	66.0	56.1	744

注) 平年値は平成25年～令和4年の平均値、本年の調査日は9月11日

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風等に備えるため、ネットや支柱の補強や明きよ等の排水対策を行う。また、大雨等で穴落ちが発生したほ場は、速やかに埋め戻す。
- 2 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガを主体とした防除を行う。
- 3 秋期もウィルスに感染するので、採種ほ場はアブラムシ類の防除を徹底し、発病株は早めに抜き取る。

にんにく

《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場の準備と施肥
 - ア 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の土壌病害虫が発生していない排水性の良いほ場を選ぶ。なお、排水の悪いほ場に植え付けざるを得ない場合は、明きよや深耕など事前の排水対策を徹底する。
 - イ 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
 - ウ 基肥は、窒素成分で10a 当たり25kgを目安とする。
- 2 種子の準備
 - ア 種子用の球は、病害虫の被害や腐敗がなく、形が整った一球5～6片のものから選ぶ。
 - イ りん片重は10～15gを基準とし、大きさ別に3段階程度に選別し、できるだけ大きさを揃えて植え付ける。
 - ウ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片の選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。
 - エ イモグサレセンチュウの被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを経ていない種子は絶対に使用しない。
- 3 植え付け
 - ア 9月下旬～10月上旬に行う。
 - イ 植え付ける深さは7～8cm程度とする。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 7月第5半旬からの高温乾燥の影響により、軟腐病や軟白部の褐色腐敗症状が発生し、収量は平年を下回っている。

- 2 軟腐病やアザミウマ類、ハモグリバエ類の被害が散見される。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 降雨に備えるため、明きょ等の排水対策を講じる。
- 2 斑点性病害、さび病、ネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。
- 3 軟白長30cm以上を確保し、適期収穫に努める。

秋だいこん(10月収穫)

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在（調査日は9月11日）の生育は、発芽後はおおむね高温少雨で推移したものの、葉長、葉数、根重ともに平年（参考値）を上回っている。
- 2 7月下旬～8月上旬には種された一般ほ場の生育は概ね良好であるが、一部で発芽不良による欠株がやや目立つほ場が見られる。病虫害はキスジノミハムシの発生が見られている。

【生育観測ほの生育状況(品種：S-139)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町乙部	本年	8/ 8	33.7	14.4	85.8
	平年	8/ 7	30.4	13.9	67.0
	前年	8/ 5	29.6	11.5	41.2

注) 平年値は平成13年～令和4年の平均値、本年の調査日は9月11日

注) 担当農家を変更したため、平年、前年は参考値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 白さび病（わか症）、アブラムシ類、コナガ等を主体とした防除を行う。
- 2 収穫は、L規格（1～1.2kg）を中心に、肥大状況を確認し適期に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在（調査日は9月11日）の生育は、草丈は96.0cm（平年比99%）と平年並、葉数は4.9枚（平年比153%）で平年を上回っている。
病虫害は特に見られない。
- 2 一般ほ場においても生育は前進傾向のため、根部状況を確認し、適期収穫に努める。

【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	4/28	96.0	4.9
	平年	5/ 1	96.9	3.2
	前年	5/11	101.8	3.6

注) 平年値は平成25年～令和4年の平均値、本年の調査日は9月11日

《今後1か月間の主な作業》

- 1 黒斑細菌病を主体とした防除を行う。
- 2 試し掘りで根部の肥大状況を確認し、適期に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の9月11日現在における果実肥大（横径）は8.1cmと平年を上回っている。
- 2 黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は8.0cmで、平年比100%、前年比95%となっている。

【生育観測ほの生育状況（品種：ふじ）】

調査地	9月11日現在の果実肥大(横径)				
	本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	8.1	7.8	104	8.3	98

注) 平年値は平成28年～令和4年の7か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 中生種の収穫
 - ア 自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせて適期に収穫する。
 - イ トキは熟期が揃わないので、3回程度に分けてすぐりもぎを行う。早生ふじは、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。
(トキの収穫始めは黒石（りんご研究所）で9月23日頃と見込まれる。)
- 2 風害防止対策
台風に備え、防風網の点検・補修や、幼木、わい性台樹の支柱の補強など風害防止対策をしっかりと行う。

牧草

《生育状況》

- 1 生育観測ほでは、平年より6日早い9月12日に3番草を収穫し、10a当たり乾物収量は168kgで平年比90%だった。
- 2 8月の高温少雨により、夏枯れしたほ場が見られる。

【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス主体）】

調査地	年次	刈取日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市米田	本年	9/12	74.8	168
	平年	9/18	76.8	187
	前年	9/16	77.9	188

注) 平年値は平成25年～令和4年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 3番草の刈取
オーチャードグラス3番草の刈取りは、10月上旬には終わらせる。
- 2 雑草防除
ギシギシ等の雑草の発生が多いほ場では、除草剤を散布する。
- 3 土壌改良資材等の散布
3番草の刈取り後に、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。
- 4 コガネムシ類による食害への対応

コガネムシの幼虫は土中で牧草の根を食害するため、加害された牧草は衰弱、枯死し、引っ張ると容易に剥がれるようになる。対策としては被害箇所を耕起して9月末には追播する。なお、耕起の際は、物理的防除のためトラクターの車速を遅くし、ロータリーの回転数を上げる。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほ（品種：パイオニア115）では、9月12日現在、糊熟期の状況である。

【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	雄穂 抽出期	絹糸 抽出期
東北町北栄	本年	5/22	8月3日	8月6日
	平年	5/21	8月6日	8月8日
	前年	5/21	8月9日	8月12日

注) 平年値は、平成25年～令和4年の10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場ごとの刈取適期（黄熟期）を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 台風等による倒伏・折損が発生した場合は、速やかに刈り取る。